



平成20年2月期 第3四半期財務・業績の概況

平成19年12月13日

上場会社名 株式会社CFSコーポレーション 上場取引所 東証第一部
 コード番号 8229 URL <http://www.cfs-corp.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 石田 健二
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務本部長 (氏名) 武市 守弘 TEL (045)476-7474

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年2月期第3四半期の連結業績 (平成19年2月21日～平成19年11月20日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年2月期第3四半期	108,272	1.7	245	—	283	—	△34	—
19年2月期第3四半期	106,457	△2.0	△84	—	20	△98.5	△1,695	—
19年2月期	142,157		△10		125		△3,151	

	1株当たり四半期(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
20年2月期第3四半期	△1	16	—	—
19年2月期第3四半期	△56	71	—	—
19年2月期	△105	40	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
20年2月期第3四半期	50,633	17,109	33.8	572	23			
19年2月期第3四半期	51,760	18,845	36.4	630	27			
19年2月期	51,970	17,497	33.7	585	18			

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー		投資活動によるキャッシュ・フロー		財務活動によるキャッシュ・フロー		現金及び現金同等物期末残高	
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
20年2月期第3四半期	2,305	△530	△3,169	2,871				
19年2月期第3四半期	233	△2,454	△229	3,201				
19年2月期	781	△2,713	545	4,265				

2. 平成20年2月期の連結業績予想 (平成19年2月21日～平成20年2月20日) 【参考】

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	145,000	2.0	550	—	650	416.3	200	—	6	69

(注) 上記の連結業績予想につきましては、平成19年8月10日発表の数値を変更しておりません。

3. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)の有無 : 無
 (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

[(注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】 4. その他をご覧ください。]

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

ドラッグストア業界および食品スーパー業界は、新規出店の加速化や同業および他業態を巻き込んだ価格競争の激化、M&Aによる業界再編等、依然として厳しい経営環境が続いております。このような状況のなかで、当社にあっては新経営体制・新経営方針の下、コモディティ商品では競争力のある価格設定を、高付加価値商品については商品価値を強調する等、引き続き商品政策・販売政策・価格政策の強化を図るとともに、業績回復に向けた諸施策の徹底に努め、基礎収益力の向上を進めてまいりました。

当第3四半期は、これらの施策の効果が徐々に浸透し、その結果売上高については客数および総買上点数が増加したこと、季節商材の動向が順調に推移したこと等により前年同期を上回り、営業利益についても粗利益率の改善や売上の増加に伴うリベート等の増加により前年同期を上回ることができました。また、業務改革担当を新設しお客様に直接役立たない経費の削減を積極的に進めたことが奏効し、販促費や新規出店コスト負担等が若干増加したものの、経常利益についても前年同期に比べ大幅に改善することができました。

店舗につきましては、平成19年9月「ハックドラッグ鶴ヶ峰店」(横浜市旭区)を出店したほか、同月「キミサワせせらぎパーク三好店」(静岡県三島市)を「ハックドラッグせせらぎパーク三好店」とともに複合型施設内に同時開業し、神奈川県1店、静岡県2店、東京都1店合計4店舗を出店する一方、既存店の活性化のためにドラッグストア1店舗の大型改装と不採算店舗3店舗の閉鎖を実施いたしました。

これらの結果、当第3四半期までの業績につきましては、売上高1,082億72百万円と前年同期に比べ18億14百万円(1.7%)の増加となりました。営業利益については、2億45百万円と前年同期に比べ3億29百万円の増加、経常利益については、2億83百万円と前年同期に比べ2億62百万円の増加とそれぞれ大幅な改善となりました。また、最終利益は税金費用の計上により34百万円の四半期純損失となったものの前年同期に比べ16億61百万円改善し、諸施策の浸透効果による業績回復の兆しが現れた結果となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ13億36百万円減少し506億33百万円となりました。この主な要因は、たな卸資産が7億38百万円増加したものの、現金及び預金が13億94百万円、投資その他の資産が3億86百万円減少したこと等によるものであります。

負債につきましては、買掛金および未払金等のその他流動負債が増加したものの、借入金の減少に努めた結果、借入金総額が29億30百万円減少したこと等により、前連結会計年度に比べ9億47百万円減少し335億24百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ3億88百万円減少し、171億9百万円となりました。

・キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ13億94百万円減少し、28億71百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

営業活動による資金の増加は、23億5百万円となりました。これは、たな卸資産の増加による減少要因はあるものの、税金等調整前四半期純利益の計上、減価償却費の計上および仕入債務の増加等によるものです。

投資活動による資金の減少は、5億30百万円となりました。これは主に店舗の出店等による固定資産の取得等によるものです。

財務活動による資金の減少は、31億69百万円となりました。これは主に長期借入金34億30百万円の返済によるもの等であります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当期は新経営体制・新経営方針の下、すべてにおいてお客様の立場に立って、お客様の信頼と支持を得られる店舗づくりを目指し、業績の回復に向け販売政策の強化、価格政策の見直しと仕入面の整備・改善を図ってまいりました。当社にとって最大商戦である年末年始の需要期に入り、引き続き販売政策強化による客数の増加と固定客重視政策による収益回復を最優先の課題として取組み、併せてお客様に直接役立たない経費の削減に傾注してまいります。

新規出店については、期初の予定通り順調に推移しており、通期ではドラッグストア16店舗、スーパーマーケット1店舗となり、また既存店舗の改装を7店舗で実施する一方、効率性その他の理由で10店舗程度閉鎖する見込みであります。

なお、当社は調剤薬局最大手の株式会社アインファーマシーズ(札幌市東区)と株式移転により両社の完全親会社となる共同持株会社を設立し経営統合することに合意しておりますが、本日開催の取締役会にてこの経営統合をお諮りするのための臨時株主総会の招集および付議事項を決議した上、「臨時株主総会招集および議案決定に関するお知らせ」を公表いたしましたのでご参照ください。

また、今期は決算期の変更により14ヶ月決算となる予定であります。その内容についても本日開示いたしました「決算期(事業年度の末日)の変更および配当予想の修正に関するお知らせ」を併せてご参照ください。

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
該当事項はありません。
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用
税金費用については、法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更
該当事項はありません。

5. (要約) 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期末 (平成19年2月期 第3四半期末)		当四半期末 (平成20年2月期 第3四半期末)		増 減 金額	(参 考) 前期末 (平成19年2月期)	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
(資産の部)							
I 流動資産							
1. 現金及び預金	3,201		2,871		△330	4,265	
2. 売掛金	2,353		2,232		△121	2,141	
3. たな卸資産	12,105		12,754		649	12,016	
4. その他	3,329		3,928		598	4,052	
流動資産合計	20,990	40.6	21,787	43.0	796	22,475	43.2
II 固定資産							
1. 有形固定資産	13,503		12,272		△1,231	12,325	
2. 無形固定資産	1,366		1,127		△239	1,335	
3. 投資その他の資産	15,899		15,447		△452	15,833	
固定資産合計	30,769	59.4	28,846	57.0	△1,922	29,494	56.8
資産合計	51,760	100.0	50,633	100.0	△1,126	51,970	100.0
(負債の部)							
I 流動負債							
1. 買掛金	12,525		13,039		513	12,026	
2. 短期借入金及び一年内 返済予定長期借入金	3,955		4,555		600	3,955	
3. その他	5,302		7,844		2,541	6,500	
流動負債合計	21,783	42.1	25,438	50.2	3,655	22,481	43.2
II 固定負債							
1. 長期借入金	7,770		5,015		△2,755	8,545	
2. 預り保証金	1,786		1,703		△83	1,773	
3. その他	1,574		1,368		△206	1,673	
固定負債合計	11,131	21.5	8,086	16.0	△3,044	11,991	23.1
負債合計	32,914	63.6	33,524	66.2	610	34,472	66.3
(純資産の部)							
I 株主資本							
1. 資本金	5,660		5,660		—	5,660	
2. 資本剰余金	4,945		4,945		—	4,945	
3. 利益剰余金	8,052		6,323		△1,729	6,596	
4. 自己株式	△8		△9		△0	△8	
株主資本合計	18,651	36.0	16,920	33.4	△1,730	17,195	33.1
II 評価・換算差額等							
1. その他有価証券評価 差額金	194		188		△6	301	
評価・換算差額等合計	194	0.4	188	0.4	△6	301	0.6
純資産合計	18,845	36.4	17,109	33.8	△1,736	17,497	33.7
負債純資産合計	51,760	100.0	50,633	100.0	△1,126	51,970	100.0

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期 (平成19年2月期 第3四半期)		当四半期 (平成20年2月期 第3四半期)		増 減 金額	(参 考) 前期 (平成19年2月期)	
	金額	百分比	金額	百分比		金額	百分比
I 売上高	106,457	100.0	108,272	100.0	1,814	142,157	100.0
II 売上原価	76,814	72.2	77,512	71.6	698	101,961	71.7
売上総利益	29,643	27.8	30,759	28.4	1,115	40,195	28.3
III 販売費及び一般管理費	29,727	27.9	30,514	28.2	786	40,205	28.3
営業利益	△84	△0.1	245	0.2	329	△10	△0.0
IV 営業外収益	287	0.3	215	0.2	△72	401	0.3
V 営業外費用	182	0.2	177	0.1	△5	265	0.2
経常利益	20	0.0	283	0.3	262	125	0.1
VI 特別利益	10	0.0	21	0.0	11	10	0.0
VII 特別損失	2,185	2.0	96	0.1	△2,089	3,884	2.7
税金等調整前 四半期(当期)純利益	△2,153	△2.0	208	0.2	2,362	△3,748	△2.6
税金費用	△458	△0.4	243	0.2	701	△596	△0.4
四半期(当期)純利益	△1,695	△1.6	△34	△0.0	△1,661	△3,151	△2.2

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前年同四半期 (平成19年2月期第3四半期)	当四半期 (平成20年2月期第3四半期)	(参 考) 前期 (平成19年2月期)
区分	金額	金額	金額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 税金等調整前四半期(当期)純利益 (△は純損失)	△2,153	208	△3,748
2. 減価償却費	1,112	1,113	1,547
3. 減損損失	2,113	—	3,212
4. 賞与引当金の増加額	685	684	24
5. 退職給付引当金の増減額(△は減少)	160	△103	166
6. 売上債権の増加額	△334	△91	△121
7. たな卸資産の増減額(△は増加)	491	△738	580
8. 仕入債務の増減額(△は減少)	△357	1,012	△856
9. その他	△6	447	1,434
小計	1,712	2,533	2,240
10. 法人税等の支払額	△1,395	△145	△1,340
11. その他	△83	△82	△118
営業活動によるキャッシュ・フロー	233	2,305	781
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 固定資産の取得による支出	△2,309	△928	△3,043
2. 差入保証金の預入による支出	△378	△94	△552
3. 差入保証金の返還による収入	537	493	1,192
4. 預り保証金の受入による収入	152	8	156
5. 差入保証金の返却による支出	△120	△78	△137
6. その他	△336	68	△329
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,454	△530	△2,713
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 短期借入金の純増加額	—	500	—
2. 長期借入れによる収入	3,200	—	4,500
3. 長期借入金の返済による支出	△2,950	△3,430	△3,475
4. 自己株式の売却による収入	—	0	—
5. 自己株式の取得による支出	△0	△0	△1
6. 配当金の支払額	△478	△239	△478
財務活動によるキャッシュ・フロー	△229	△3,169	545
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	—
V 現金及び現金同等物の減少額	△2,450	△1,394	△1,386
VI 現金及び現金同等物の期首残高	5,652	4,265	5,652
VII 現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	3,201	2,871	4,265